

土偶「縄文のビーナス」

茅野市内の縄文遺跡、 「縄文のビーナス」関連の主な出来事

- 1942年 尖石遺跡、上之段遺跡が国史跡に指定
- 52年 尖石遺跡が国特別史跡に指定
- 55年 尖石考古館オープン
- 86年 棚畑遺跡から土偶「縄文のビーナス」が出土
- 90～91年 ニューヨークでの展覧会に出展
- 95年 「縄文のビーナス」が国宝に指定
- 98年 駒形遺跡が国史跡に指定
パリでの展覧会に出展
- 2000年 東京国立博物館「日本国宝展」に出展
尖石考古館が尖石縄文考古館としてリニューアルオープン
中ッ原遺跡から土偶「仮面の女神」が出土
- 09年 ロンドンの大英博物館での展覧会に出展
- 09～10年 東京国立博物館「国宝 土偶展」に出展
- 14年 「仮面の女神」が国宝に指定
東京国立博物館「日本国宝展 祈り、信じる力」に出展
- 15年 信濃美術館「善光寺御開帳記念 “いのり”のかたち」に出展
- 17年 京都国立博物館開館120周年記念特別展覧会「国宝」に出展
- 18年 東京国立博物館「縄文 一万年の美の鼓動」に出展
パリでの展覧会に出展
- 19年 長野県立歴史館開館25周年記念「特別企画 土偶展」に出展
- 25年 大阪市立美術館「日本国宝展」に出展
6月15日で国宝指定30周年



茅野市長
今井 敦

「あいさつ」

土偶（縄文のビーナス）が縄文時代のものとして初めて国宝に指定されてから今年で30年を迎えます。国宝の保存と継承にあたり、ご支援、ご協力いただいた皆さまに対し、深く感謝申し上げます。

この土偶は、国宝に指定される9年前、1986年に、茅野市米沢地区の棚畑遺跡から出土しました。破片で見つかることが多い土偶にあつて、ほぼ完全な形のままだ丁寧な埋められた状態で見つかり、妊娠した母親を思わせるその造形は、これまで多くの人に親しまれてきました。海外の展覧会でも人気を博し、1998年にパリで開催された「縄文 日本芸術の原点」展ではポスターや図録の表紙を飾りました。この土偶に不

変の母性を感じるのには洋の東西を問わないのだろうと思います。縄文時代は1万年以上にわたつて、大きな文化変動がなく持続した時代と言われています。人々は自然のなかで、そこから得られる恵みによって生活を営んでいました。出土した当時の道具を見ると大きな争いがなかったこと、また、出土した当時の骨を見ると病気やケガをした人に介添えしていたことがわかつています。そこからは、当時の人々の互いに支え合う姿が見えてきま

す。この土偶の母性あふれる造形は、そのような縄文時代の社会を象徴しているように感じます。市民の皆さん一人ひとりが、国宝土偶「縄文のビーナス」を通じて、当時の人々の生き方や暮らしに思いを馳せ、何かを感じることに、これからのまちづくりの課題解決に結びついていくと考えています。国宝土偶「縄文のビーナス」が、これからも多くの人々に愛されることを願い、あいさつとさせていただきます。

記念イベント

◆ 記念対談 ◆

6月15日(日) 午後1時30分～

茅野市尖石縄文考古館

対談者 原田昌幸さん(元文化庁主任文化財調査官)
守矢昌文さん(尖石縄文考古館特別館長)

◆ 国宝指定30周年のお誕生日の催し ◆

6月15日(日)～29日(日)

午前9時～午後5時

茅野市尖石縄文考古館

※15日のみの催しもあり